

# 令和2年度「ふくしまを知る連続講座」

## 実施報告

当館では県民の皆様の文化振興に寄与するため、「ふくしまを知る連続講座」を実施しています。ここでは今年度開催したものを簡単に紹介します。

### 第1回 「古関裕而、青春時代の福島と仲間たち」

講師： 守谷 早苗 氏（福島市史編纂室／民俗芸能を継承するふくしまの会理事）

開催日： 令和2年8月30日（日）14：00～15：30 参加人数：66名

古関裕而は、「栄冠は君に輝く」や「長崎の鐘」など数々の名曲を生み出した、福島市出身の作曲家です。昨年は、彼が主人公のモデルとなった、NHK朝の連続テレビ小説「エール」が放送され、話題となりました。

今回の講座では古関裕而とその仲間たちについて、古関裕而の幼少期から青春期の年譜と照らし合わせながら、当時の福島の文化を交えてお話いただきました。

「福島県物産陳列館」や「日本銀行福島支店」など、明治から昭和にかけての福島の建築物や情景、古関裕而自身が撮影した妻・金子の写真なども紹介いただき、当時の福島に思いを巡らせながら、お話を伺いました。また、「エール」のお話も交えながらの説明もあり、参加者が楽しみながら耳を傾ける様子が見られました。

福島の仲間たちでは、「福島行進曲」や「福島ブルース」などの詞を手掛けた作詞家・野村俊夫、「イヨマンテの夜」などを歌った歌手・伊藤久男、古関をレコード会社・日本コロムビアに推薦した作曲家・山田耕筰など、古関を支え、導いた人々が紹介されました。また、美人画で有名な日本画家であり、「福島夜曲」の作詞も手掛けた竹久夢二が福島を訪れたことについても、当時の新聞記事に加え、守谷先生の説も交えてお話いただきました。

古関の幼少期の福島は繁栄しており、青春期は不況に見舞われています。古関は幼いころから貴重な蓄音機・レコードなどで音楽に触れる機会が多くありました。その後不況によって実家の呉服店が倒産したため、その後を継がずに、音楽の道へ進むことができます。そういった福島の状況が、作曲家・古関裕而を生んだ一因となっているとのお話もありました。

今回の講座を通して、古関裕而が、本人の才能や努力はもちろんのこと、福島で多くの仲間たち、環境に恵まれ、作曲家として大成していったことを改めて感じることができました。

※令和2年2月20日（木）から12月2日（水）まで、古関裕而に関する資料のミニ展示を行いました。



（地域資料チーム 横田愛美）

## 第2回 「江戸時代の絵図でつなぐ今と昔」

講師：小野 孝太郎 氏（福島県歴史資料館 副主任学芸員）

開催日：令和2年11月28日（土）14：00～15：30 参加人数：61名

絵図の見方や魅力について、江戸時代に描かれた集落・山川・寺社・史跡などの説明を交えながらお話しいただきました。

絵図には目的に応じて様々な種類があり、その中で最も多いのが村絵図です。村絵図には村内の様々な実態が描かれており、目的としては年貢のため領主へ田畑の場所や大きさなどを伝えることや、自分たちの覚えがきとして村の史跡や家の場所を残す意味合いがあるそうです。

ほか道中図（街道や航路における宿・村・港間の距離情報や行程をかいたもの。主に旅人が見る）や水路図（航行の行程を描いた舟運図や分水状況を描いた堰絵図、治水状況などを描いた川筋絵図がある）などがあります。



これ以外にも絵図には「国絵図」、「群絵図」、「裁許絵図」（奉行の下した判決が描かれたもの。絵図の裏に文字が書かれる）等があり、当時の状況を伝えています。

江戸時代の絵図を読む際のポイントとしては、当時使われた御家流による崩し字を解読するスキルを身に着けること、地名辞典を用いて土地の基本情報を把握

すること、地図（古地図）と絵図を比較すること、実地調査で景色や風土などを見ることなどが挙げられました。また、絵図から情報を読み取るための注意力も重要とのことでした。

ほか、絵図の注意する点として現代の地図と違い北を上固定していないこと、表題がないものについては年代・場所を推定する必要があることなどを挙げられました。

以上の点を踏まえながら、実際に描かれた絵図について説明していただきました。道中図である「奥州道中絵図」には「流し木」が描かれ当時の習俗を伝えています。また、「陸奥国信夫郡下鳥渡村絵図」や「西大枝村絵図」では絵図内に何気なく描かれた人名・村名や寺社・史跡・街道の様子から当時の地域の様子を伺い知ることができました。

絵図を読む意義については、自分自の知的好奇心を高め、地域の連続性とアイデンティティを感じられることであるというお話がありました。こうした絵図を保存し、後世に伝えていくことの重要性を改めて感じることができる講座でした。

※この講座は、令和2年11月6日（金）～12月2日（水）にかけて当館で開催された、「福島県歴史資料館移動展示 描かれた江戸時代の伊達郡」の関連事業です。

（地域資料チーム 佐藤妙）



『義経腰掛松之図・大木戸山・弁慶硯石案内』 1781年  
福島県立図書館 蔵  
藤田村（現国見町）の宿場の様子が描かれる。